

ハーコット

育成者：オンタリオ州ハロー農業試験場(カナダ)

NJA1 (フェルプス×パーフェクション) の交雑実生

来歴：[(ジェネバ×ナラマー) × モルデン604] と

導入：農林水産省果樹試験場 (1979年)

特性

■栽培特性

樹姿は直立性を示し、樹勢は「信州大実」と同程度で強く、樹は大きい。幹は褐色、枝梢は赤褐色である。新梢の発生は多く、太く長い。短果枝の着生は「新潟大実」に比べて少なく、中程度である。

長野県須坂市における開花時期は4月上中旬で、「平和」「信州大実」よりやや遅く、「新潟大実」とほぼ同時期である。花は一重で普通咲き、大きさは大きく、花色は淡桃色である。葉身の形は円状広卵形で、大きさは中程度、葉面の毛じは無、葉色は緑色である。

花芽の着生は中程度で日本アンズ品種に比べて少ないが、自家和合性であり結実是比较的良好である。

成熟日数は満開後80～90日の範囲にあり、長野県須坂市で7月上中旬に成熟する中生種である。「新潟大実」とほぼ同時期に成熟する。

■果実特性

果形は短楕円形で「信州大実」「新潟大実」にくらべてやや縦長である。果頂部の形は平ら、広さは中程度である。こうあ部の広さは広く、深さは中程度である。赤道部の縫合線の深さは中程度である。1果重は80～100gと大きく、玉揃いはやや良である。果皮の地色は橙色、陽光面の着色は中程度で、ぼかし状の紅色に着色する。裂果は収穫期の降雨により発生し、少から中程度みられる。

果肉色は橙黄色、肉質は密で、果汁は多く、渋みはない。香気は多い。甘味は多く、糖度は屈折計示度で14～15%と高い。酸度はpH4.0前後で「平和」「新潟大実」「信州大実」と比べて少ない。酸が少なく、糖度が高く、食味が優れるため生食用として期待できる。日持ち性はやや劣るので適期収穫に心がける。シロップ漬けにすると色調が劣るため加工には不向きである。

核は「新潟大実」より大きく、楕円で濃褐色を呈し、離核である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

病虫害に対しては他の主要品種とほぼ同等であるが、胴枯病に対してやや弱い。胴枯病予防のため、主幹部の凍害の起こりやすい部位に白塗剤を塗り、日焼け、凍害から守る。また冬期間は凍害防止のために主幹部にわら巻きを行う。

■地域適応性

東北地方から九州にかけてのアンズの栽培地域では栽培が可能である。ただし樹体の耐寒性は中程度のため、寒冷地ではやや不向きと思われる。土層が深く、排水良好な肥沃地に適するが、ももに比べて耐干性が強いいため、比較的乾燥する場所でも栽培可能である。開花期と収穫期に降雨が少ない地帯が適地である。また凍霜害を回避するため、霜穴、霜道を避けて栽植する。

(田尻勝博)